



# 広報 ロザリオ

第142号

社会福祉法人  
ロザリオの聖母会  
千葉県旭市野中4017  
Tel (0479) 60-0600  
ホームページアドレス  
<http://www.rosario.jp>  
Eメールアドレス  
[honbu@rosario.jp](mailto:honbu@rosario.jp)



## 目次

巻頭写真 「ロザリオ発達支援センター みんなでクリスマスソング」	1
年頭所感	2
創立記念日行事	3
障害者週間行事	5
海上寮の取り組み	6
連載 私の新人時代⑧ 「良く学び、良く遊んだあの頃・・・」	8
さわやか芸能発表会	9
第12回読売療育賞敢闘賞受賞	9
新任者紹介	10
餅つき大会	10
お悔やみ	10

リフトカー購入	10
共同募金会寄附	10
イオンサンタからのクリスマスプレゼント!!	11
靴下カバーおよびバスタオルの寄附	11
ピアノを探しています	11
各種表彰者	12
寄附者御芳名	13
フォトギャラリー	14
行事予定	16
みんなの家より新商品のお知らせ	16
職員・ボランティア募集のお知らせ	16

# 年頭所感

理事長 桑島克子

明けましておめでとようございます。

職員・ご家族の皆様にとって今年が平和な年でありますようお願い申し上げます。

しかし現実には相変わらずで、新年早々トルコでのテロではじまりました。

さて、昨年来話題には挙げていますが、今年はいよいよ社会福祉法人は新制度での運営がはじまります。施設長・事業所長会議で何度か問題点と当法人の取り組みの進捗状況についてはお伝えしているところですが、皆さんの十分な説明は届いていないかもしれません。

昭和26年(1951年)戦後社会福祉事業法の制定以来の改正で国家財政の逼迫で従来の福祉事業の事業名に合致しない福祉ニーズへの対応が求められています。ロザリオの聖母会は前理事長がどのような障害にも対応したいと、定数は50名に押さえ多くの障害種別の施設を用意しましたが、現在はそのど

らご意見とご協力お願いいたします。

人に喜んでもらえることが自分もうれしいことは日々の業務で実感されています。大きな事でなくとも、小さなことに大きな気持ちを加えることで相手に伝わります。基本は自分がして欲しいように相手にも心遣いをする。自分がして欲しいくないことは他にもしないことが原則です。

今回の社会福祉法人の改正では法人としてのガバナンスの重要性が指摘されています。従来、それぞれの施設の個性性、同じ法人の一施設の独自性がよく法人内の他の施設が困っていても痛みを感じることが少なかったように思います。これからは痛みを分かち合い協力する事がより大切になります。

各施設の行事は盛り上がりつつも法人としての事業は低調のこともままみられます。今年社会福祉法人として65周年を迎え記念誌の発行を予定しています。編集委員の努力で形が作られてきていますが、職員の熱意と関心はやや少ないように感じます。今からでも遅すぎることではありませんので、最後ま

で関心と参加をお願いいたします。

4月からの新しい法人運営のため、今年に入り人事異動を行う予定です。出来るだけ各施設・事業所として職員個人の負担を小さくしたいとは思っていますが、いたしかなないところがあります。どうぞ、ご協力お願いいたします。異動によって新しい職場に新しい気持ちのよい風が吹きお互いが一歩進んだと感ずる機会になって頂きたいと期待しています。

現在施設・事業所で大切な役を担っている職員のおおくは異動を経験しています。

社会福祉法人に吹くマイナスイメージの風を法人設立時の先人のおもいに重ね再びプラスにかえこの地で穏やかな風に変えていけるよう職員みんなが努力を続けていきたいと思えます。このことを通して世界そして日本に吹き荒れている自分達の主張を力で見せ付けている集団にノーといえる力を育んでいけたらと期待します。大きな力に立ち向かうには大きな力はいりません。一人一人の力は小さくとも多くの人とつながり、地道に粘り強く押し流されずに自分というフィルターを通した火種を消さな

れにも属さない福祉の支えを必要としていながら、社会保障の枠外にいる人々の存在が大きく浮上しています。国は社会福祉法人に対して余剰財産は地域における公益的な取り組みに当てる事を求めています。考えてみればお金を溜め込まないで困っている人に還元することは福祉の原則で昭和26年以前は慈善事業から始まっていることから考えれば当然であります。いつのまにか公共が税金を使っている仕事を請け負うだけになって、福祉の必要な人々を限らず対象にするのは小回りのきくNPO法人の仕事になっていきました。社会福祉法人で働く私達も限られた対象にのみサービスすることに慣れてきてしまったことは否めません。

ロザリオの聖母会としては一つに誠実に着実に対応し先人からの福祉事業の根幹の理念を敷衍してこの地域の暗がりにも明かりを点す仕事を続けてまいります。

必要とされるサービスを有効に提供できるように職員の皆さんか

い事が大切です。元旦の新聞に「置かれた場所で咲きなさい」の著者渡辺和子さんの訃報が掲載されていました。その著作は先が見えないうとき分かりやすく明かりを点し、時を待つ大切さを教えてくれました。機会がありましたら一読してみてください。

隣県の肢体不自由児施設を定年退職して元来の目標であった重症心身障害児・者施設に就職し、聖堂の前にある施設で静かに生活出来ることを喜んで数年後、理事長職は重過ぎました。中高校時代の友人達の事あることに「お祈りしています、いつもイエス様が見守って下さっていますから安心して日々

を過ごしてください」と書き添えられる手紙や法人内職員・亡くなった母の生前からの祈りに支えられている実感があります。長い間忘れることなく応援してください。後援会の方々の思いと先人方の理念を次の世代に引き継ぐまで、皆様のご協力お願いいたします。

利用者の方々の平和は職員の皆様に負うこと大であります。職員一人一人の心身の健康を祈ります。前を塞ぐものを取り除くだけが大切ではないことに気づいてください。努力で改善が計られる身体の健康は出来るのは自身です。よい一年でありますようお互いに努力いたしましょう。

## 創立記念日行事

法人本部事務局  
係長 花牟禮香一

さる10月5日(水) 13時から本会の小原ケイ記念聖堂に於いて、創立記念日行事が執り行われました。

第一部は、職員の多年にわたる功績を称えて永年勤続表彰が行われました。本年度の受賞者は、勤

続20年が5名、10年が13名の合計18名、表彰式では本会理事長桑島からの祝辞に続き、受賞者に表彰状と記念品が授与され、その後、受賞者代表からの謝辞が述べられて式は終了しました。

第二部は、門脇佳吉神父による



「人間は生まれながらにキリストの道を行なっている」と題した講演会を行いました。

門脇神父は東京大学工学部卒業。上智大学大学院で文学修士・神学修士。ローマ・グレゴリアン大学にてPh.D.取得。フォーダム大学で心理学を、レーゲンズブルク大学でマイスター・エックハルトを研究。現在は上智大学名誉教授を務められています。また、禅に関する本を多数執筆されている事でも知られています。

ご講演の内容は次の通りです。『キリスト教信者ではないけれど、皆キリストの道を行なっていま

す。

この講演の題は奇妙に思われるかも知れませんが、実は「キリスト教」ではなく「キリストの道」であります。聖書をよく調べると、元々そういうものであったのがヨーロッパに渡り、聖書の宗教であったものが、だんだん教えの方が中心になり「キリスト教」になりました。本来は人間の歩むべき道というものであったのがキリスト教になった。それをもう一度戻すため、皆にとつて一番良いのは日本の宗教というのは割と広い立場を持ち、そこから入るとキリスト教というものがもっと理解できるようになるのではないかと思います。人間は生まれながらにしてキリストの道を行なっているという事が納得できるかと思えます。

日本人の神道からキリストの道をだんだんと解かるようにしたいと思えます。第一に日本人の心は皆がそれぞれ歩んできた道が、キリストの道に近いものであるという事です。日本人の宗教心は元旦に初詣や祭りを大事にし、氏子は総出で祭りを盛り上げていきます。面白いのは地域社会に住んでいる人はみんな氏子です。同じ

ようにキリストの道を歩んでいきます。古い神道は教義もない、神様の像もない。神様を祀るという事が日本人の心のどこかにあると思います。神道の本質というのは神様との対面です。それが神道の一

番中心にあるものだと思えられ

ました。キリスト教も全く同じだと思います。神様と対面するという事がキリスト教の中心なのです。

出雲の国（島根県東部）に佐太神社というのがあります。そこで神主が神殿に入り一体になる事、神様の命を蘇らせるという神道のお祭りにあずかる事が出来、神道の本質がよく解かった気がしました。とりわけ神様に仕えるという姿勢、いろんな食物を備え、神様と食事を共にするという直会というものが非常に印象的でした。それをキリスト教から見ると、ミサとなりません。信徒はその村の全員が氏子であるように、キリスト教に置き換えると、全人類が信者でなくともキリスト者なのです。最も懐が深いのです。そこに全人類を包み込んでしまうのです。どんな人もキリストの恵みの中に生きています。そういう意味でキリストの道を歩んでいると言えるよう

に思います。それが人間らしく生きていく事だと思います。キリストは人々のために尽くし、人々のために命を捧げ、そしてその道を歩んでいる。人はそれに影響を受けて生活しているのです。

今日、このロザリオの聖母会について伺いましたところ、有志の6人の方々が起こして、ここまで発展させた事に本当に驚いて、すぐ思いました。この地に神様が働いていて、6人の方々が働かせ、この会を発展させた事、これはまさしくキリストが全人類を救おうとする働きの中に、この会のすべての人が関わって、それに助けられ、この会がこんなに大きくなっている事を知りました。そこから見ると皆の仕事が非常に面白い方になると思います。キリスト教信者ではない方がここに来て、同じ精神で、この会を盛り立てているわけです。それを皆と考えてみたいと思います。

第二に「キリスト教ではなくキリストの道だ」という意味は、その働きの方から考えたいのです。この会で行っているものすべては、その働きの中に入っていると

思います。いろいろな仕事が行われていく事でしょう。それを見ると、隣人に奉仕するというのが皆の仕事ではないかと思えます。隣人とは困っている、苦しんでいる隣人を助けるという事。このロザリオの聖母会が行っているのはこの事です。どこからこの働き(行)が生まれてくるか？皆は知らず知らずのうちに神様から助けられ、人々に奉仕するという事が非常に意義ある事と心で感じているに違いありません。神様から助けられ、恵みがあり、それに押されてこの仕事に就いているのではないかと思えます。キリスト教というのは全人類がその懐に入っています。自分は知らないのです。その恵みの中に、救いの力の中に導かれ、この会の仕事に携わるようになっていきます。その大きな計らいを少し考えれば皆の仕事に意義があるのではないかと、キリストの道を歩んでいるという事を解かしてもらえらると思います。

「キリストの道」というのは、神は人（全人類）を愛し、その愛に応えて隣人に奉仕するという事です。その意味で、この奉仕している人々はキリストの道を歩んでいるのではないかと思えます。ど

こかで神の恵みに助けられながら、この仕事に身を捧げている事、ただ単にお金儲けではなく人生の目的があつて、人々に仕える事、困っている人を助けるという事に非常に大きな意義を見出している。これこそが人間のすべき事だと皆が感じ取っていただければ、まさしくキリストの道を歩んでいる事だと言って良いと思いません。

最後に、「皆のために困っている人を助けたい」「奉仕したい」、この心があつて成立します。見えなかつた事を見えるようになっていただきたい。」



# 「障害者週間行事」

聖マリア園 園長 菅谷一恵

今年の障害者週間行事は、12月3日に千葉県立東総文化会館において267名の参加を頂き開催されました。この障害者週間行事は、ロザリオの聖母会として福祉関係者をはじめ、地域の人たちへ講演会を通して貢献を行う目的があります。今年度の基調講演は、

社会福祉法人名護学院理事長、崎濱秀政先生にご登壇頂き「子どもたちの支援を考える」というテーマで崎濱先生の法人で行っている「子どもサポート事業」についての講演をいただきました。



名護学院は、沖縄県で地域に根ざした就業支援を展開しており、利用者の尊厳の保持（権利擁護）を基本として、一人ひとりに合った自立生活による社会参加の実現を応援する仕組みづくり（社会資源の開発）と生きやすさのある社会づくりへの貢献を先駆的・開拓的に独自の性のあるプログラムの実践

「小規模化・個別化・食育・キャリア教育・大人になっても困らない」を行っています。

名護学院には不登校児童や発達障害をはじめ、様々な要因で障害を持つ子どもたちが利用されており、支援者が大事にしていることは、単に問題行動として捉えるのではなく、彼らにはスキルが身に付いていないこと、間違った学習をしてきたという考えのもとで根気よく具体的に大人がモデルとなり教え、出来たら承認する。また、地域の高齢者は知恵とスキルを持つているジョブコーチであり、子どもたちがどうやって地域の人たちと関わっていくかを大切に

し、体験を通して社会性を育てていくことなど、短い時間でしたが情熱的に語られ、なにより「子ども」の時代に適切な支援を受けられ「将来は光り輝くものになる。貧困の連鎖を断ち切るためには、子ども時代にスキルを付けていくことが重要だ」と話されていた事がとても心に残りました。

後半は、「地域における子どもたちの支援」をテーマに、崎濱秀政先生と淑徳大学総合福祉学部准教授、松浦俊弥先生と海匠ネットワークの英一馬所長を交えての鼎談でした。

松浦俊弥先生は、千葉県内の特別支援学校で教鞭をとられ、指導する傍らで障害のある子どもたちの放課後活動の充実を訴え、自ら「印旛学童クラブあかとんぼ」を立ち上げました。

そもそも、障害を持つ子どもたちの母親の「夏休みは地獄だ！」という言葉から始まり、障害児の家庭生活・地域生活が極めて貧弱であったことから検討を重ね、反対も多くあったそうですが母親たちと何度も行政へ足を運び1998年4月、千葉県で初めての放課後活動「あかとんぼ」が誕生した秘話や、その後の取り組み（障害のある子どもたちが地域で生きるために、放課後支援から夏休みなどの休日支援活動等）語っていただきました。「あかとんぼ」



が出来てからは、保護者が元気になる、子どもたちにも良い変化が見られてきたことは、地域を巻き込んだ社会経験が連続して行われてきた結果だと話していました。

海匠ネットワークの英一馬所長からは、中核地域生活支援センター事業の1つとして今年度7月に取り組んだ「あさひ子ども食堂」の報告がありました。この事業には、子育て支援課・健康管理課・学校教育課の他、地域の民生委員・主任児童委員やボランティアの皆様方に大変お世話になりました。そして旭の地でも多くの人々の力が寄り添い合って子どもたちを育てる芽になっていくのだと感じました。

少し時間が短く感じましたが、今回の基調講演と鼎談では、障害があってもなくても「子どもを育てる地域一体化の支援」いつでも子どもたちが相談できる場所・人作り」について考える機会でもあり、障害を持つ子ども達への支援についてどうあるべきかを深く学ぶ機会となりました。

# 支えられて85年海上寮のとりくみと新暁の星病棟

海上寮療養所 医局長 佐多範洋

海上寮に新暁の星病棟ができ3年半が経ちますが、この旭の地に初めて海上寮が受け入れられて、85年もの年月が経過しました。今回は広報ロザリオの紙面をお借りして、海上寮の歴史と現在のとりくみを紹介させて頂きます。

戸塚神父が亡くなり、終戦後は聖フランシスコ修道会カナダ管区司祭の稲用経雄神父の指導のもと、若いシスター志願者の4人の女性達が「海上寮療養所」を引き受けました。



創設の女性たち(和田・小原・長岐)

になったカトリック精神科医の土居健郎(のちに東大教授)が顧問となり、昭和40年前後より精神病院として生まれ変わりました。そしてその後は、心の問題に寄り添う病院として現在まで支えられてきています。



土居健郎先生

外来診療は月のべ1400人前後来てられています。一般の外来のほか、手芸・料理・農耕などのものづくりや、コミュニケーションを通して精神症状の改善を図る作業療法・デイケアなども行っており、こちらも毎日のべ数十人が利用しています。こういう場を通して来られる方の表情が柔らかくなったり、意外な能力が発見できたりすることは、私達にとっても大きな励みになっていきます。

創設者の戸塚文卿青年は、将来を期待された医師でした。東大医学部を卒業し北海道大学の助教授となり、移植医学を学ぶため欧米留学をしました。その時にカトリックに導かれ、「司祭になって病院を作る」と決心しました。大学を離れ、当時不治の病だった結核治療のため、昭和6年、矢指村野中に海上寮の前身「ナザレトハウス」が作られました。

戦後の混乱の中、身内のない患者が亡くなる時はずっと手を握り慰め、棺が見えなくなるまでみんなで見送る、そのような医療が海上寮では当たり前のように行われていたそうです。



戸塚文卿神父



ナザレトハウス外気舎

その後、結核の治療法は確立されましたが、精神病が社会問題となっていました。海上寮は「甘えの構造」で世界的に有名

現在の海上寮は、病棟は3つで、それぞれ海の星病棟、暁(あけ)の星病棟、マリア病棟と言います。ちなみに、「海の星」「暁の星」は両方ともカトリックでマリア様を意味するそうです。実は全部マリア病棟という意味なんです。この3つの病棟は、中庭の藤棚、コイのいる池を囲むような形で建っており、藤棚や池は別の病棟の方や外来の方とのコミュニケーションの場やくつろぎの場所となっています。

他にも独り暮らしの方やグループホーム入居者の方などを中心に、自宅におじゃまして支援する訪問看護も海上寮で長くやっています。訪問看護も海上寮の依頼も受けられるように、昨年度「訪問看護ステーション・ソフィア」として独立しました。ちなみに、精神科通院者の場合は、住んでいる市町村役場で手続きすれば、通院、作業療法、デイケア、訪問看護などの精神科医療サービスが合わせて月額2500円(※単身非課税世帯の場合)などとなるサービス(障害者総合福祉法)があります。せっかくの制度ですので、当てはまる方はぜひ手続きをお勧めします。



個室



暁の星病棟外観



4床室



談話コーナー



浴室



廊下

入院病棟のうち暁の星病棟は、主に3カ月くらいまでの比較的短期間の入院に対応しています。まだ新しく、採光に配慮されているので明るく、開放感あるつくりはまるで教会堂のようだとも言われます。部屋は有料の個室（1日1000円から）の他に、4人部屋もあります。また、廊下の一角

には患者さんどうしで交流できる談話コーナーが2ヶ所あります。スタッフには言えない内緒の話ができる?のもの、良いと思います。治療は医師の面接・薬物調整の他に、精神保健福祉士が制度利用のコーディネートを行ったり、作業療法士が作業療法を行ったりし

ています。また、必要に応じて心理士が心理検査・カウンセリングなどをを行います。でも一番頼りになるのは、日常生活に密着している看護師さんたちかもしれません。体調を崩し、点滴などが必要な時には、ナースステーションの隣にガラス越しに作られた観察室があり、ここには酸素や

地元の魚屋さんなどの業者から新鮮な食材を安く提供して頂き、丹精を込めて作っているの、無理もありません。昔は精神科の入院は、数十年など長期になることがめずらしくありませんでしたが、最近では薬の進歩や福祉の充実などにより、新たに長期の入院が必要になることは少なくなっています。それでもさまざまな理由で退院が難しく、長期の入院が必要な方もいらっしゃいます。そのうちに高齢になり車いすになる方もいらっしゃいます。そのような方々が本人らしく過ごすためにはどうしたらよいか、それも海上寮の大きな課題の一つです。

吸引のための配管が整備されています。お風呂は2か所、その他にユニットバスもあります。お風呂の1つは介護者用に対応しており、浴室専用の車いすごとエレベーターのように下がって入浴できる装置があります。非常に便利で、入浴される方も気持ちよと言われませんが、千葉県では海上寮が初めての導入だそうです。

あと入院して多くの方に言われるのは、食事がおいしいこと！

先人たちには遠く及ばないのですが、なるべく心のこもった医療ができるよう、これからもみんなで頑張っていきたいと思えます。なにかお困りのことがありましたら、ぜひご相談下さい。最後に一言。もし海上寮で働いてみたいという方がいらっしゃったら、大歓迎です！資格がなくても大丈夫。ぜひご連絡、お待ちしております。

連載 私の新人時代 ⑧

# 「良く学び、良く遊んだあの頃・・・」

佐原聖家族園 園長 飯島広司

私は平成7年に入職し、現在、勤続22年目を送っております。現在44歳ですので、人生の半分をこのロザリオの聖母会で過ごしていることとなります。ここ数年、仲間と酒を酌み交わし、過去の思い出話に花を咲かせる機会もめっきり少なくなってしまうましたので、この機に懐かしい過去の記憶を掘り起こしてみたいと思います。

「古き良き時代」と語れるほどの経験はありませんが、私の「あの頃」を紹介させていただきます。何分記憶力に乏しい私の記憶ですので、誇張した表現もあるかと思いますが、話半分で読んでいただければと思います。

入職と同時に野球部「カトマンズ」に入部し、名(迷)?サードとして活躍、バレー部「ラキソベロン」ではセッターからの完璧なトスに、アタックラインからの見事な跳躍、そして着地と同時にキヤッチ。この頃はビーチバレー(水着観察)にも参加していま

た。数年後に発足したサッカー部「ラガッツイオ」ではゴールキーパーを努めました。必死にボールを追いかける選手を鼓舞するどころか、緩やかに転がってくるボールを何故かトンネルし得点を与え



る醜態をさらしていました。その他、連戦連敗の卓球、小学生に軽く追い抜かれた駅伝など、とにかく汗を流す機会が多くありました。もちろん、流した汗を取り返すために、水分補給にも熱が入りました。閉店まで続く飲み会やカラ

オケも日常茶飯事で、施設においても行事や職員旅行の後、その他、何かにつけては「打ち上げ」と称してその機会が設けられていました。仕事をする間もないほど忙しい日々だったと思います。若さゆえ…ということも多々ありました。ちなみに、極々一部の熱狂的なファンを持つ「飯島バンド」の活動は20年近く続いています。技術的な敷居が高いバンドですが、興味のある方は是非お声掛けください。

さて、仕事について、遊んでばかりだった私が言うのもどうかと思いますが、「若気の至り」大いに結構。「無謀なチャレンジ」大歓迎。当時、諸先輩方はきつとそう思ってくれていたと思います。「自主性」そして「考えること」を大切にし、様々な面でその機会を与えて頂いていたと実感しています。充実した毎日を送ることができた背景にはこのようなことがあったからだと思います。



あれから20年。環境も変わり、立場も変わり、それなりに年を重ねてきました。良いことも悪いことも含め、「あの頃」の全てが今の自分の土台となっています。また20年後、今のことを「あの頃」と懐かしく振り返りたいと思います。

# さわやか芸能発表会

聖家族園 石坂一平

第24回を迎えた「さわやか芸能発表会」は12月6日（火）千葉県文化会館大ホールを会場に、出演団体12施設・展示団体10施設、総参加者数約1500名と盛大に行われました。聖家族園おんがくクラブはこの日の為に5月から練習を重ねてきました。



普段は歌や楽器演奏を中心に活動していますが、今回は劇も取り入れた「裸の大將放浪記」を舞台で発表しました。内容は、浦島太郎の音楽と共に幕が上がり、子ども達にいじめられていたカメが登場↓山下清さんが現れ、カメを助ける為ににぎりやいじめっ子に渡すその後、全員で「野に咲く花のように」を歌って大団円。練習では、新しい要素である劇がなかなかうまくいかず、発表時間の8分以内に収めるのに一番苦労しました。

しかし、同じ練習を何度も行っていく内にだんだんとまとまりが生まれ、利用者と職員が丸となって練習の成果を舞台上で発揮することができました。結果は優秀賞で、利用者の歓喜と驚きが入り混じった顔は忘れられません。一昨

年の舞台発表では敢闘賞だった為、リベンジが果たせて良かったです。おんがくクラブの活動も3年目となり、初めはなかなか歌うことの出来なかつた利用者も今では先頭を切って歌うまでに成長し、聖家族園の各行事（夏祭り・クリスマス会）やふたば保育園での出張演奏、飯岡しおさ

いマラソン大会での応援にも参加し、充実した一年を過ごしています。昨年の展示部門優秀賞に続いて2年連続優秀賞受賞となり、今回は最優秀賞目指して頑張りたいと思います。

# 第12回読売療育賞敢闘賞受賞

聖母療育園 リハビリ科 副主任 城戸麻里

平成28年10月13・14日にかけて熊本で行われた第27回重症心身障害療育学会学術集会において「五感刺激を用いた集団活動の試み」という演題を発表し、第12回読売療育賞敢闘賞を受賞しました。

平成26年から毎月1回聖母療育園リハビリ科で気管切開、経管栄養などの理由の為、長時間の外出が困難な利用者を対象に五感刺激を用いた仮想旅行をテーマとした集団活動を行ってきました。

これまでは、言語表出が困難な利用者が感覚刺激をどのように感じているのかを評価する方法として、快・不快の表情や発声、筋緊張の変化などで評価してきました。今回は客観的に評価する方法として、ストレスマーカーとしての唾液アミラーゼ活性値を用い、活動の前後に測定し、その推移を記録し、検討しました。

『活動』は大きく分けて、覚醒・興奮を促す活動（動的活動）と落ち着き・鎮静を促す活動（静的活動）があります。それぞれの活動に

はどのような感覚刺激が有効であるのかを調べ研究発表しました。この結果をもとに病棟スタッフも交えて集団活動を続けていきながら、活動内容を充実させ、より多くの利用者に集団活動を提供していけるように精進していきたいと考えています。

この集団活動と研究にご理解・ご協力を承りました利用者・家族、職員の皆様様に心より感謝を申し上げます。



# 新任者紹介

臨床心理士  
関 家 亜 弥 子



しばらく休息充電していましたが、11月より復帰。今後の活躍に期待しています。

## 海上寮療養所

准看護師



これまで、幅広い分野で経験を積まれました。今回、訪問看護にチャレンジしたいとの強い思いでソフィアの門をたたきました。ご活躍期待しています。

## ソフィア

看護師



29年1月から聖母療育園の療育科看護係の鴨井真弓さんを御紹介します。看護歴36年のベテランです。明るく、モノ作りが得意で行動力のある肝ったま母さんの様な方です。

## 聖母療育園

施設管理員



12月から勤務しております。見た目どおりさわやかで、やさしく、誠実な方です。長く映写技師の仕事をされ、様々な資格も持つっており、幅広い活躍が期待されます。よろしくお願します。

# お悔やみ

本会元監事の高野丈夫さん（76歳）が、平成28年12月24日に逝去されました。高野さんには、平成19年11月30日から平成27年11月25日までの5期にわたり監事として本会の運営にご尽力を賜るとともに、旭市社会福祉協議会々長として地域福祉向上のために尽くしていただきました。謹んでお悔やみを申し上げます。

# 餅つき大会

みんなの家 石田春江

社会福祉協議会様より、もち米のご寄附を受け、1月4日恒例の餅つき大会をとり行う事が出来ましたことを御礼申し上げます。

お陰様で、利用者さんのあふれんばかりの笑顔・口いっぱい頬張る姿を見ることが出来、今年も良い一年のスタートになりましたこと、感謝致します。



# リフトカー購入

佐原聖家族園 主任 海上健久

佐原聖家族園では昨年の10月27日に新しくリフトカーを購入致しました。

昨年の4月より開始した日中利用の方々の送迎のほか、休日の余暇外出などでも使用しています。

車椅子対応でバックモニター、ドライブレコーダー、カーナビを装備し、毎日の送迎、休日の余暇ドライブで大活躍です。

安全運転を心掛け、大切に使用していきたいと思えます。



# 共同募金会寄附

第27回ロザリオ福祉まつり事務局

第27回ロザリオ福祉まつりの目的の一つに挙げていた共同募金寄附について、当日会場に設置した募金箱にお寄せ下さった善意に加えて、法人、施設・事業所のバザー収益から拠出した資金を合わせた20万円を平成28年11月7日、共同募金会旭市会に直接お渡ししました。今回で5回目となります。

ロザリオの聖母会の施設・事業所には共同募金会から毎年たくさんのお配分金を頂戴し、車両や設備の充実に活用させて頂いております。社会から我々に寄せられた善意に、少しではありますが応えたいという思いからこのような形を取らせて頂きました。

この提案を快くご理解下さった後援会やロザリオ福祉まつり実行委員会、関係の皆様にご報告と御礼を申し上げます。



# イオンサンタからのクリスマスプレゼント！

聖母療育園 事務係長 林勝己

12月17日に行われた当園のクリスマス会へ、イオン旭店様より2名の方がボランティアとして参加頂いた上に、イオンサンタに扮した店長さんから入所者全員へ、とてもあたたかな靴下のプレゼントを頂きました。



イオン旭店様には社会貢献活動としてこれまでも何度もこの師走の忙しい中、クリスマス会に参加して頂き盛り上げてもらうなど頭が下がる思いでいっぱいです。心温まるプレゼントありがとうございます。



また、今年はこの他に法人内の聖家族園がウオータージャグを聖マリア園が大判タオルを頂いておられます。3施設を代表しお礼申し上げます。



# 靴下カバーの寄附

聖マリア園 園長 菅谷一恵

松井理事の知人、椎名雪江様より手作りの靴下カバーを沢山頂きました。

シックな色合いや可愛らしい柄など色々な柄があり、自分の好みを笑顔で選びながら楽しんでいました。

靴下はそもそも足を暖かく保つ保温作用があります。これから寒い冬に向かう季節にピタタリの少し早い椎名サンタさんからの贈り物となりました。



# バスタオル寄附

佐原聖家族園 園長 飯島広司

佐原聖家族園では、永井建設株式会社様より香取市社会福祉協議会を通じて、バスタオルのご寄附をいただきました。新しいバスタオルに利用者も大変喜んでおります。まことにありがとうございます。ありがとうございました。



# ピアノを探しています

ヤマハ、もしくは河合楽器の古くなったピアノ、使わなくなったピアノをご寄附頂ける方がいらっしゃいましたら、左記までご連絡ください。ご協力をお願い致します。

問い合わせ

TEL 0479(60)0601

(海上療養所)

ボランティア感謝式受賞者

平成28年度ボランティア感謝式の受賞者に、賞状と、ささやかな記念品をおくらせていただきました。受賞者は次の方々です。

◆ 旭市立海上中学校 様

◆ NPO法人車椅子レクダンス普及会  
千葉東総支部 様



ご協力ありがとうございました。

ロザリオの聖母会平成28年度永年勤続表彰

【勤続20年】

飯島能子  
小出薫  
片岡浩史  
横田信一郎  
中野敦

【勤続10年】

内山春水  
鈴木和明  
高橋保博  
信田早香  
日高玲子  
鈴木卓郎  
大網喜美子  
大木広恵  
遠藤泰裕  
佐藤多範  
品村惠子  
小篠篤子  
福田佳子



千葉県社会福祉協議会  
会長表彰

佐々木日出男  
小嶋昭三  
松井安俊  
片岡浩史  
水野亮子  
林田順子  
中野仁敦

千葉県社会福祉事業共助会  
長期在籍会員顕彰

斉藤克利弘  
田中克明  
仲條真弓  
白井英子  
伊藤あけみ





# Photo Gallery

## ★ナザレの家かとり★

クリスマス会  
楽しかったね～



ナザレの家かとり全員集合!!!



## ★みんなの家★



2016忘年会  
全員集合!!!



2017  
餅つき大会!!!



初春 みんなで書き初め!!!

## ★佐原聖家族園★

かわいらしいサンタさん♡



トナリカイから  
プレゼントを  
買ったよ♪



★聖母療育園★

「クリスマス会で、ケーキを作ったり  
サンタさんからプレゼントを貰えたりして楽しかったー!!!」

クリスマス  
コンサート  
楽しみ♪



メリー☆クリスマス

★聖ヨセフつどいの家★



プレゼント  
もらったよ



忘年会でハンドベルを演奏。

★聖家族作業所★

忘年会満喫♪



★聖家族園★

皆で仲良く歌ったよ♪



★聖マリア園★

クリスマスツリーきれい☆



美味しいお弁当  
頂きます！

INの花  
綺麗で♪



クリスマス会の  
準備中!!

2016. 2. 14

# ♡バレンタインデー♡



**ロールケーキ**  
900円  
箱入り 1,000円  
プレーン・チョコ



1台 1,500円



1台 1,000円

今年もバレンタインの季節がやってきました！

みんなの家 パン班・喫茶班では  
手作りの3種類のケーキを心を込めて  
焼き上げました。

皆様からのご予約を  
お待ちしております。

みんなの家  
TEL 60-0607  
内線 701

- ## 行事予定
- 29. 1. 4 新年挨拶会、経営会議
    - 10 法人運営会議
    - 11 経営会議、総合安全対策委員会
    - 17 法人運営会議
    - 18 施設・事業所長会議、経営会議、地域生活支援会議
    - 24 法人運営会議
    - 25 理事会
    - 31 法人運営会議
  - 2. 1 経営会議、総合安全対策委員会
    - 7 法人運営会議
    - 8 経営会議
    - 14 法人運営会議
    - 15 施設・事業所長会議、経営会議
    - 18 平成 29 年度入職者事前研修
    - 21 法人運営会議、入職 4 年目研修 (A グループ)
    - 23 中間管理職基礎研修
    - 28 法人運営会議、入職 4 年目研修 (B グループ)
  - 3. 1 経営会議、合同研究発表会
    - 7 法人運営会議、入職 5 年目研修
    - 8 経営会議、総合安全対策委員会
    - 14 法人運営会議、中間管理職全体研修
    - 15 施設・事業所長会議、経営会議
    - 21 法人運営会議
    - 22 理事会、評議員会
    - 23 中間管理職基礎研修
    - 28 法人運営会議
  - 4. 3 平成 29 年度辞令交付式、幹部職員顔合わせ会

本誌のバックナンバーを  
ロザリオウェブサイトに  
(<http://www.rosario.jp>)  
に掲載しています。

◆ 随時面接を行っておりますので、  
本部総務課までご連絡ください。  
TEL 0479(60)0600  
(担当 採用係)

### 職員募集のお知らせ

精神科、障害児者医療に携わる  
看護師を募集しています。  
TEL 0479(60)0600  
(担当 仲條)

ボランティア募集のお知らせ  
ロザリオの聖母会では、施設や  
利用者のために常時ボランティア  
のご協力をお願いしています。  
お願いのできる方は是非、ご連  
絡ください。ご協力をお願いしま  
す。

問い合わせ  
TEL 0479(60)0600  
(担当 仲條)

医療 海 上 療 養 所	訪問 看護 ステーション ソ フ ト ワ ー ク セ ン タ ー	医療型 障害児 入所施設 療養 介護 事業所 聖 母 療 育 園	生活 介護 児童 発達 支援 放課 後等 デイ サービス 聖 母 通 園 セ ン タ ー	児童 発達 支援 事業 ロザ リオ 発 達 支 援 セ ン タ ー	児童 発達 支援 事業 旭 市 こ ども 発 達 セ ン タ ー	障 害 者 支 援 施 設 聖 マ リ ア 園	障 害 者 支 援 施 設 聖 家 族 園	障 害 者 の 就 労 促 進 事 業 所 み ん な の 家	生 活 介 護 事 業 所 聖 家 族 作 業 所	高 齢 者 支 援 事 業 所 ナ ザ レ の 家 あ さ ひ	生 活 介 護 ・ 放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス ロザ リオ 訪 問 介 護 事 業 所	通 所 介 護 ・ 介 護 予 防 通 所 事 業 所 デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー ロ ザ レ	障 害 者 支 援 施 設 佐 原 聖 家 族 園	生 活 介 護 ・ 放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス 聖 ヨ セ フ つ ど い の 家	共 同 生 活 援 助 事 業 所 ナ ザ レ の 家 か と り	地 域 生 活 支 援 セ ン タ ー 友 の 家	中 核 地 域 生 活 支 援 セ ン タ ー 海 匠 ネ ッ ト ワ ー ク	障 害 者 有 就 業 ・ 生 活 支 援 セ ン タ ー 東 総 就 業 セ ン タ ー	香 取 市 相 談 支 援 事 業 所 香 取 障 害 者 支 援 セ ン タ ー	障 害 者 有 就 業 ・ 生 活 支 援 セ ン タ ー 香 取 就 業 セ ン タ ー	障 害 者 相 談 支 援 事 業 所 み ら い
-----------------------------	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--	---	---	--	---	---	--	---	---	---	---